



# 農政課題解決研修情報

農政課題解決研修(革新的農業技術習得支援研修)事務局 (連携普及部 連携普及企画室(担当:大島))  
電話 029-838-7599

## <研修実施状況>

### ○泌乳持続性を活用する酪農生産技術

北海道農業研究センターでは9月24日から9月25日にかけて、標記に係る研修を実施しました。受講生は10都県から11名の普及指導員等が参加しました。

本研修は、H22年の酪肉近基本方針や家畜改良増殖目標の向こう10年間の改良目標形質にも設定された泌乳持続性(LP)の技術を生産現場の技術指導者に習得してもらうため実施しました。

1日目にLPに関わる牛群検定成績や種雄牛の遺伝的能力評価の見方、育種改良の方向性、除籍率の高い乳房炎・体細胞数とLPとの関係、育種改良に対する飼養管理面からの乾乳期短縮など技術化の講義を行いました。

2日目に所内の初産牛一群管理の飼養試験や、泌乳平準化研究を行った民間牧場などを視察しました。また泌乳平準化を理念に泌乳期1群管理を行う酪農家の視察は、酪農現場で指導する受講生の関心が高く、経営者の考え方や飼料設計に熱心にメモをとり、ウシの状態を観察していました。

受講生からは、「密度の濃い研修なので、討議や意見交換のできる時間をもっとほしい」との感想が寄せられました。

2日間の研修でしたが研修実施後のアンケート結果では、研修全体を通して受講者から91%の肯定的評価をいただきました。

泌乳持続性は革新的な技術でまだ研究途上にあります。研修生から要望のあった普及事項の明確化をはかり、さらに酪農家の省力化や産乳性向上に向けた技術の体系化を図りたいと考えます。

(担当:北海道農業研究センター 酪農研究領域 早坂貴代史)



講義の様子



泌乳平準化実践酪農家の見学

### ○難防除センチュウ・ウイルスの同定・診断と環境に配慮した防除技術

北海道農業研究センターでは、10月2日～4日の3日間、北海道から沖縄に至る9都道府県から10名の参加を得て標記に係る研修を行いました。病害虫担当者であってもセンチュウやウイルスを扱う機会は少ないため、本研修は実習に重点を置きました。具体的には、センチュウ・ウイルスの「種類と生態および診断法」、「防除技術」など、当研究センター等において得られた最新の研究成果を交え、実用的な内容の講義を行った後、センチュウでは「分離法」「調査診断技術」「種類同定技術」および「遺伝子診断法」、ウイルスでは「電子顕微鏡観察による診断法」などの各論的な実習を行いました。実習に当たっては、主要な有害センチュウ・ウイルスとその被害株を講師陣が用意し、事前準備も万全でした。受講者の専門分野は作物・野菜と病虫害の方が主で、現場でセンチュウやウイルス害の問題を実際に抱える方も多く、知識・技術の習得に対し大変に積極的でした。アンケート結果では、同定・診断・防除が総合的に習得できる実践的なカリキュラムに対する評価が高く、講師陣や他県の方との交流もできて有意義であったという感想を頂きました。研修全体への評価は、「大変良かった」と「良かった」を併せると100%と、大変良好な評価をいただきました。今後の要望として、糸状菌、細菌等の専門的な研修等が挙げられ、今後はこれらの要望を踏まえ、さらに良い研修を実施したいと考えます。

(担当:北海道農業研究センター 生産環境研究領域 奈良部孝)



顕微鏡を使ったセンチュウ診断実習



センチュウ種の遺伝子診断実習